街の座談会 ④

年表だけではわからない この街で育った 僕たちが見た七里ガ浜

子供時代にこの街に移り住み、青春時代を経て人生の大半をここで過ごした3人が集合。街の創生期から今に至るまで、記憶を辿りながらのディープなトーク、必読です！

写真右から
小島 万明　1969 年より東3丁目在
和洋菓子店「プチ」二代目。2003 年行事体育理事
成島 誠一　1966 年より東3丁目在（週末）
技術士・環境カウンセラー、サーフライダーファンデーションジャパン運営諮問委員
鈴木 泰子　1970 年より東 2 丁目在。主婦
ガールスカウト、東二丁目公園愛護会などで活躍

乾いた馬糞や砂埃の舞う西部劇の舞台のような駅前風景

――当時の街の風景はどのようなものでしたか？ 今とはだいぶ違っていたようですが。

成島　僕が住み出した1966年当時の街はガランとして何もなく、それこそヤッホーと叫べばこだまが返ってきたほどです。七里ヶ浜駅周辺は昭和40年代までは湿地帯だったんです。柴崎牛乳店が経営する牧場もあって、なんとものどかな保養地の風情でした。

泰子　子供たちはその牧場を抜けて駅へ行くのですが、牛やアヒルに追いかけられ、逃げ切ってなんとか到着！ そんな日々でしたね（笑）。

万明　七里ガ浜小学校の下あたりに、乗馬クラブもありました。

泰子　佐良直美さんの馬もいたそうですよ。風の強い日は、街灯もない道に乾燥した馬糞が舞って、まるで西部劇の荒野のワンシーンみたい。舗装はされていたけれど、分譲地が空き地だから全体的に埃っぽくて、母は嫌がっていましたね。多くの奥様たちは東京育ちでしたから、皆さん音を上げていたそうです。

万明　電車は単線だし、デパートも少ないしね。

泰子　最初は毎月銀座に通っていたのが、だんだんと隔月になり、いつしか藤沢へ（笑）。服を買える店が、さいか屋か名店ビルくらいしかなくて、みんな同じ服を着ていたという笑い話も聞きました。私たちの世代は最初からここで育っているので、なんとも思わないけれどね。

夢のリゾート住宅をアピール分譲時は西武不動産前に行列も

――みなさんのご両親は初期の分譲で土地を購入されたんですね。

万明　成島家の移住は66年、ということは第1期分譲ですね。

成島　当時のパンフレットを見ると、リゾート色を強く打ち出していたように思います。実際、別荘地として購入する人も多かったみたい。

泰子　山と海があって通勤圏内というアピールに惹かれてね。パイロットや大学教授、画家、企業の社長さんも多かったし、送迎車のある時代だったから、通勤も苦にならなかったんでしょう。

成島　当時のパンフレットを見ると1坪6-7万円ですね。ローンが組めない人には西武不動産が保証人になるから買ってくれとお願いされたなんていう、

嘘みたいな話もあったとか。

泰子　慰安旅行で湘南を訪れたついでに、安いから勢いで手付けを打ってきちゃったという話も聞きました。

万明　うちの親が購入したのは68年の第3期。この時点では既に結構な人気だったそうで、高山商店のタケさん曰く、西武不動産の事務所前には申し込みの行列ができたそうです。

成島　当時、西鎌倉、逗子ハイランド、鷹取、馬堀海岸などの開発を西武グループが大々的に進めていたんですが、それらが連鎖的に販売網を作って〝西武の分譲地〟として売り出したんです。

泰子　確かに母たちの頃は、タクシーの運転手さんに「七里ガ浜の西武分譲地まで」って言っていましたね。

成島　ただし、この中にも西武不動産ではなく飯野不動産が手がけた分譲区分があってね、そちらは塀が玉石、西武側は大谷石だからひと目でどちらかわかった。玉石の方が高級感がありました。

万明　七里ガ浜の住宅地は建ぺい率が厳しいでしょ、でも、商店街だけは容積率をあげて3階建てを許可していたんです。それと、他に比べて価格も高かったって、うちの親父は自慢していましたけどね（笑）。

海水プールに雪印パーラー、3人共通の子供時代の思い出

――商店会のラインナップも変化していますが、特に思い出の店などはありますか？

成島　1966年当時、西友や商店街はもちろんまだなく、住宅もまばら。買い物は、稲村ガ崎駅前の今市フードセンター、出前は稲村の中華偕楽が定番でした。その後、つとむ薬局、八百屋あらいや、高山商店、魚康、天六、高砂寿司ができ始めました。

万明　当時は街灯もなかったんでしょ？

成島　街灯設置の交渉は、68年頃に初代商店会長の高山商店の先代の親父さんがしたんですよ。

万明　うちの店（プチ）ができたのは70年だから、その後ですが、その時点で店舗用地はもう北東の角しか残っていなかったそうです。それでもまだ2丁目あたりには岩がゴロゴロ転がっていましたね。プチは、その昔は鎌倉風月堂のゴーフルとかを扱う高級和洋生菓子店だったの。珊瑚礁より先に行列ができたのは、実はウチなんですよ（笑）。現在は休業中ですが、70年創業だから今年50周年です。

泰子　それにしても、商店会のラインナップは随分変わりましたね。

成島　我が家の月一の外食は天六か高砂寿司でした。どちらも廃業して20年以上経ちますが、天六はカウンターで揚げたての熱々を食べさせる天ぷら専門店、高砂寿司は都内からの客も来る名店でした。

泰子　お坊っちゃまだったのね。私は、お客さんが来ると七里ガ浜ホテルでお食事ができるのが楽しみだったな。

成島　珊瑚礁が昔は雪印パーラー（喫茶

店）だったのは覚えているよね。先代の親父さんが牛乳屋さんから始めたんだけど、カウンターでソフトクリームを食べさせたり、地元のおばちゃんたちがチョコレートサンデーを食べたりする店でした。

万明　ハンバーグも出していましたよね。当時は熱々の鉄板に乗ったハンバーグが衝撃的だったな。

成島　そのうちに親父さんがカレーを研究して、一代で今の繁盛店を築いた。商店会は、彼が商店会長になったあたりからドカーンと盛り上がったんです。

――海水を引き込んだプールもあったそうですね。

万明　昭和30年代前半から40年代、今の七里ガ浜高校がある場所に七里ヶ浜ホテルという低層ホテルがあって、プリンスのバンケットホールの方には海水プールがありました。（左上写真）

成島　いわゆるサーファー第一世代の遊び場だったね。大きなプールバーもあって、夏には人気スターのアイ・ジョージやバッキー白片など、人気のハワイアンバンドも演奏に来ていました。

泰子　パラソルブースでは、男の人たちが女の子をはべらせてね（笑）。その一方で、地元の子供達も散々遊ばせてもらいました。住民無料の恩恵にあずかって、途中で家にご飯を食べに戻ってね。

成島　僕はプールサイドの立ち食いそば屋の余り物をもらうのが楽しみだった。閉店間際に行くと、おばちゃんが余りを食べさせてくれるんですよ。

万明　僕はチビだったから、もっぱら子供プールで戯れていたな。ちなみにちょっと時代は戻るけど、戦時中は、七里ヶ浜に高射砲があり、一個小隊が駐屯していたらしいです。

――134号線が有料道路だったことは割と知られていますよね。

万明　料金所は、今のダブルドアーズの前あたりでした。

成島　小動から逗子海岸までの開発で、七里ガ浜から由比ヶ浜区間が最初に完成したんです。普通車料金は30円でしたけど、そのうち料金所の手前から分譲地を抜ける迂回路がみんなの知るところとなって、程なく料金所もなくなっちゃいました。

幼稚園へは山越えで。子供一人で歩いて通えたのどかな時代

――幼稚園や学校もやはり地元だったのですか？

成島　僕が入園する時はまだ楓幼稚園はなく、聖路加幼稚園に行きました。ゴルフ場の裏あたりから山へ分け入って一人で山越えをして通っていましたね。

泰子　幼稚園は送迎もなかったからみんな自力で通っていたんですね。今は単独帰宅はもちろん、ＩＤがなければ親でも子供を受け取れませんよ。小学校は、私は稲村ヶ崎小学校から七里ガ浜小学校へ、万明ちゃんも同じですよね。

万明　はい。1976年に七里ガ浜小学校が開校して、それでみんな七小に移ったんです。その一期生が成島さんの弟の誉さんや珊瑚礁の現オーナーの郁さん。

成島　ちなみに僕は湘南学園。

万明　中学については、七里ガ浜からだと御成中学と腰越中学という選択肢があったんですが、当時はまだ学区も曖昧で、親の好みで決まるようなところもありました。

泰子　サラリーマンの七里、商店街の御成、漁師の腰越、そんなイメージでしたね。

万明　一時期は御成中学が人気で、逗子からも越境して来ていました。

プロがいないから安心できる。夏祭りは子供達の同窓会場でした

――今や大イベントとなった夏祭りですが、お祭りが始まった頃のことは、覚えていますか？

万明　当初は「子供納涼の夕べ」として1972年に始まったんですが、そのうちに、珊瑚礁の親父さんと幕田クリニックの先生が、「どうせやるならこの土地柄に合うもの、普通の盆踊りではなくハワイアンにしよう」と提案したんです。

成島　幕田さんが、子供達にとって故郷の思い出になるような行事にと、ポケットマネーでバンドを入れて、じゃんじゃん人を呼んでね。今でいう町おこしですよね。

万明　公園では盆踊り、メイン会場ではハワイアン、二つの会場が徐々に統合されてステージはさらに派手になりました。

成島　規模は変わってもプロの屋台を入れないというルールは最初から変わらないですね。

泰子　夏祭りが子供達がいつまでも安心して集える、同窓会場みたいな存在になっているのも、そのおかげです。

万明　エスニック料理なんかが珍しかった頃から、まるで世界の料理博覧会みたいなラインナップで面白かったなぁ。あと、フィナーレで子ども花火をやるやらないで喧嘩になったり（笑）。

成島　当時の七里ガ浜には、破天荒な熱血漢がたくさんいたよね。

万明　そういう意味では成島さんの親父さんの昭さん（故）もその一人ですよ。2003年頃の理事会は大荒れで、喧嘩して部屋から理事が出て行っちゃうようなことが頻繁にあったんですが、いつも騒動を治めていたのが副会長（顧問）の成島さん。自治会の用心棒みたいな人でした。

文献によれば、七里ガ浜は日本の近代サーフィン発祥の地！

――成島さんと泰子さんは今も現役サーファーですが、海の話も聞かせていただけますか？

成島　戦後まもなく、七里ガ浜は進駐軍の保養地で、多くの米国軍人がバカンスに訪れていたそうです。彼らが住んでいた洋館が今のアマルフィのあたりに残っていて、子供心に江ノ電の車窓からお化け屋敷のように見えたのを覚えています。ハワイ大学が所蔵する海岸工学系の専門書の文献には、その将校さんたちが持ち込んだサーフボードで遊んだのが、日本の近代サーフィンの始まりという記述もあるんです。

――70年代には、狭いエリアに4-5軒のサーフショップがあったとか。

成島　ドロップアウトにオーシャングライド、ローカルタウン、今、ぶなヶ浜がある場所には2WMSというサーフ&ウインドの店も。七里ガ浜には本当のローカル（地元サーファー）が居たんです。

泰子　当時のローカルは縄張り意識も強くて、所属するショップによって波に乗るポイントも決まっていました。よそから来たサーファーは怖がっていましたが、ドロップアウトのウエットさえ着ていれば守ってもらえる、一人で入っていても怖くありませんでした（笑）。

成島　そういうのも、それぞれの浜を仕切っていた方が引退されたり、亡くなっ

たりして穏やかにはなりましたが、とはいえ38年経った今でも、名残りはあります。だから、新しく引っ越してきた人たちは、そういうことに縛られないで自由に入っていて逆に羨ましいよね。

街の大切な資産、七里ガ浜の〝浜〟がなくなりつつある事実を知っていますか？

――七里ガ浜のこれからについて、ご意見をいただけますか。

成島　七里ガ浜の象徴でもある〝海〟にもっと目を向けて欲しいと思います。今、七里ガ浜の砂浜はかなりまずい状況。砂が減り始めたのは80年代からで、90年代以降は加速度的に減少しています。

万明　確かに昔は稲村の浜に海の家が建っていたんですからね。

成島　私見ですが、やはり原因は七里ガ浜分譲地開発と汚水処理場ではとみています。上流からの雨水が処理場経由となったことで、行合川から砂の供給がほぼ止まってしまったんです。またこれまであった砂は、波によって由比ヶ浜方面へ。七里ガ浜は、地形的に外へと土砂が運ばれることがあっても、周辺から土砂が流入することはないんです。

砂浜で遊ぶ２人は、鈴木家の子供たち。
今からほんの20数年ほど前、
七里ガ浜には広々としたビーチがありました。

――ではどのような対策があるのでしょう？

成島　七里ガ浜の景勝を守るためにも、養浜（コラム参照）を行なって、人口的に70年代程度まで砂の量を戻すことが大切です。こちらとは逆に、江ノ島の境川や引池川、相模川下流域には、洪水で大量に砂が溜まりますから、こうした堆積砂を定期的に浚渫（しゅんせつ）して補えば、海岸の形状を保つことは可能です。というような意見書を、『鎌海』や『サーフライダーファンデーション』といった機関を通して行政に発信し、僕自身もシビルエンジニアとして支援しているのですが、なかなか実現には至りません。やはり署名を集めて陳情を出すことが一番効くとは思いますが、まずは住民として海に関心を持つだけでもいい。広町の森を守り抜いた力で、今度は僕たちの〝里海〟を守っていきたい。

泰子　子供たちが海に行く機会を増やせたらいいですね。

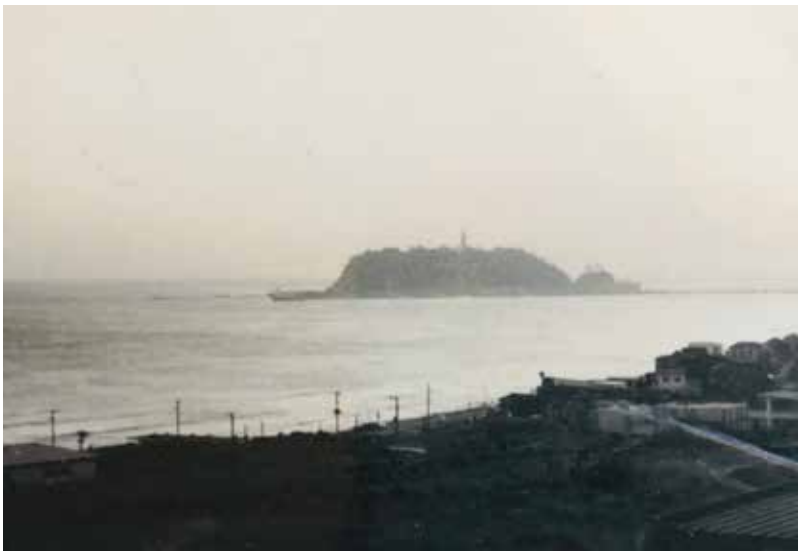
万明　はい。そしてやっぱり子供は大切にしていきたい。昔、商店街の人たちが子供たちのためにお祭りを始めた時の気持ちを、受け継いでいきたいな。僕が理事をしていた２００３年頃は、表でまったく子供の姿を見かけなかった、そんな時代を知っているだけに余計そう思うんです。

泰子　あとは、権利とか主張とかよりも〝お互い様〟という気持ちをもてたら。落ち葉、ゴミ出し、騒音や日照と、ご近所問題は様々だけど、ちょっと相手のことを思いやれば、必要なことがわかると思うの。そういう心の繋がりを大切にして暮らしていきたいですね。

Column

〝養浜〟って何だろう？

露岩もしくは侵食傾向にある海岸線に砂を寄せて砂浜を造成すること。防災や観光地の維持保全の目的で行われる。ハワイのワイキキやマイアミなどは、伝統的な手法によってできた養浜ビーチです（成島さん）



上右 _1967から 69 年頃、七里ガ浜ゴルフ場ミニゴルフコース（今の鎌倉プリンスあたり）から江ノ島を望む景色。　上左 _ 東三丁目方面の雪景色。成島さんは、背後の山並を越えて聖路加幼稚園へ通っていた。　中 _ 西友前で遊ぶ子供は、八百屋あらいやのケンちゃん、お魚亭（魚康）のしゅうちゃん、自転車に乗る成島誉君。プロムナードでいつも遊んでいた三人衆。　下左 _ 春の七小全校行事「砂工作」の風景。みんなで大きな砂の作品を制作中。　下右 _ 夏祭りには、お魚亭前に立派なやぐらが建てられました。